

第72回全国英語教育研究大会（全英連佐賀大会）

1 大会概要

(1) 目的：「“Across the borders” ～校種をつなぎ、未来を切り開くコミュニケーション能力を育む英語教育」を大会テーマとして、小学校・中学校・高等学校の英語教育を連携したものとし、世界で活躍する児童生徒を育成するための英語教育の在り方を考える。

(2) 期日：令和4年11月14日（月）～18日（金）・19日（土）

(3) 会場：オンラインによる開催

【第1日目：11月14日～18日】オンデマンド配信による開催

【第2日目：11月19日】Zoomによるオンライン開催

(4) 日程：

【第1日目】

記念講演 演題：「学校英語教育：何をどこまで？」

小中高で身に付けるべき英語力の全体像とトレーニング・イメージ」

講師：東京外国語大学 投野 由紀夫 教授

授業実践発表（高等学校）

発表者：佐賀県立佐賀西高等学校 横尾 彰乙 教諭

指導助言者：名古屋外国語大学外国語学部 太田 光春 教授

【第2日目】分科会

9:00～9:20 開会

9:20～11:00 分科会第1部（14分科会）

11:20～12:50 分科会第2部（14分科会）

12:50～13:00 閉会

2 内容

<記念講演>

学習指導要領の目指す3つの資質・能力を英語学習においてどのようにとらえるか。「知識・技能」→「発音・語彙・文法 他」, 「思考力・判断力・表現力 等」→「場面・状況・相手に応じた言葉の使用」, 「学びに向かう力, 人間性等」→「学習ストラテジー・動機付け・態度」これらをあわせて「コミュニケーション能力」と考える。

英語学習では、言語の機能別習得及びテキスト・タイプ別の4技能・5領域の習得を目指し教科書の素材のテキストタイプ別に言語機能で習得する技能を焦点化した授業を行う必要がある。その具体として、小中高それぞれの段階で何を、どこまで、どのように学ぶかについて詳細が示された。CEFR A1・A2レベルの習得には標準以上が時間が配当されているので、ここでの繰り返しによる定着とレベルアップにより、B2レベルに繋げることが大切である。

学習指導要領, CEFR, CAN-DO リスト, 教科書を、どのように授業の中に一本化して落とし込むべきかを具体例を通して考えることができた。

<授業実践発表（高等学校）>

佐賀県立佐賀西高等学校 1 年 1 組の英語コミュニケーション I での授業実践であった。

(1) 単元名

“What are the qualities of a good leader?”

(UNIT 6, ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I, 東京書籍)

(2) 単元目標

「優れたリーダーの資質とは何か」について自分の意見を理由を挙げて英語で説明する。

(3) 授業の流れ

①新出単語を使ったそれぞれの **original sentences** をクイズ形式で紹介し合うペアワーク

②質問 1 「ネルソン・マンデラ氏のリーダーとしての資質とそう考える理由」

質問 2 「優れたリーダーの資質とそう考える理由」

→それぞれがマインドマップを用いて考えを深化させる

→メモを見ながらグループ内で発表 →全体でシェア

(4) 授業研究

第 2 日目の分科会第 2 部第 2 3 分科会で、「Critical Thinking Skills を育成する発問の工夫」と題して、授業の研究テーマ、研究内容、授業実践について説明、質疑応答が行われた。Bloom の Taxonomy に基づいて工夫改善を行い、表面的な発話の表出ではなく、高次の Cognitive Skills に分類できる思考力を促す発問を研究し、授業発表に臨んだ。

名古屋外国語大太田光春教授より、「何を考え、何を伝えようとしているのか」が最も大切であり、そのためには自分の意見を、完全でなくとも英語で発信することに不安がないクラスが大きな鍵であるとの助言があった。

<分科会>

第 1 部・第 2 部それぞれで、小中高合わせて 1 4 の分科会から一つ選択して視聴する。

高等学校の部第 1 4 分科会「五領域の統合的な言語活動の実践報告～発信力の向上を目指して」と題した宮崎県立延岡工業高校近藤明子先生の発表では、「教科書を徹底的に使って」、「task-based の活動」を計画的に行うことで、少ない単位数の中で五領域を有機的に結びつけた言語活動を行い、効率的に評価を行う取組が紹介された。

3 まとめ

令和 4 年度全英連佐賀大会は、昨年の山形大会に引き続きオンラインでの開催となった。音声・画像等非常にクリアで、進行等も円滑に進められ、有意義な大会であった。

日々の授業実践にすぐに応用し、役立てられる示唆が多く含まれていた。詳しい資料をそのまま示すことはかなわないが、年度末までには報告集としてまとめられる予定である。

来年度の全英連大会は、愛媛県で開催され、本県からも発表が予定されている。多くの先生方に参加いただいて、それぞれの授業改善に繋げていただきたいと考える。

(文責：穴吹高等学校 小林恭子)